

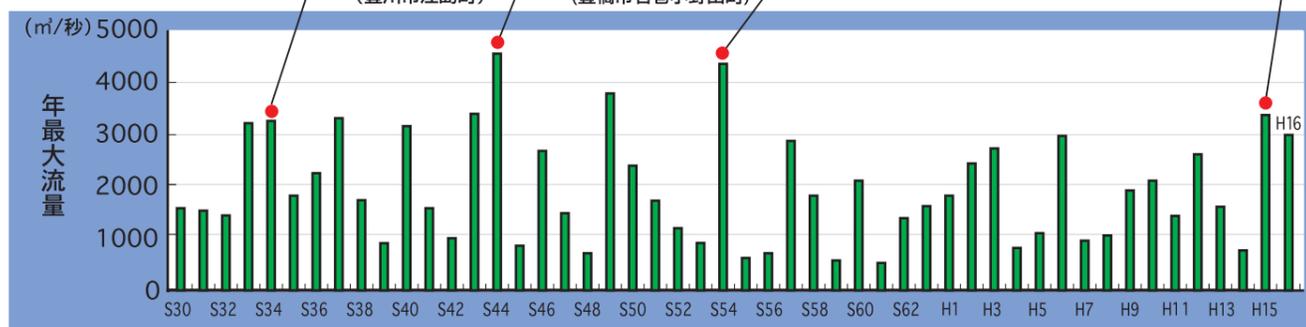
生活を脅かす水害

豊川は、過去に幾度も洪水氾濫を繰り返し、沿川の人々の生活を脅かしてきました。水害は決して過去のものではありません。現在でも油断は禁物です。

主な水害



昭和34年9月洪水（豊橋市大村） 昭和44年8月洪水（豊川市江島町） 昭和54年10月洪水（豊橋市石巻小野田町） 平成15年8月洪水（豊橋市下条）



豊川（新城市石田地点）年最大流量グラフ

治水の歩み

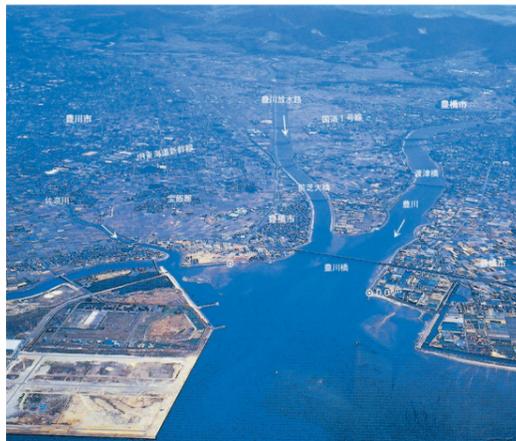
沿川の人々を洪水から守るため、これまで着実に治水対策を進めてきました。なかでも放水路の建設と豊橋市街地の狭窄部（川幅の狭いところ）を広げる工事は、下流部の洪水に対する安全性を大いに高めました。

放水路工事は昭和13年から昭和40年まで、また、豊橋市内の狭窄部の改修は昭和46年から昭和62年までの長期間を要しました。そしてこの狭窄部の改修では、約100戸の家屋が移転しました。

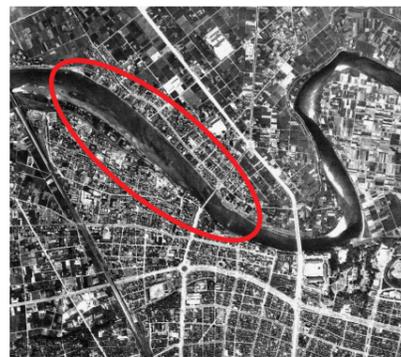
このように豊川の洪水に対する安全性の向上は、長い年月をかけ、家屋の移転や土地の提供など、沿川住民の多大な協力によってもたらされました。



放水路建設時の状況



豊川河口部付近の全景



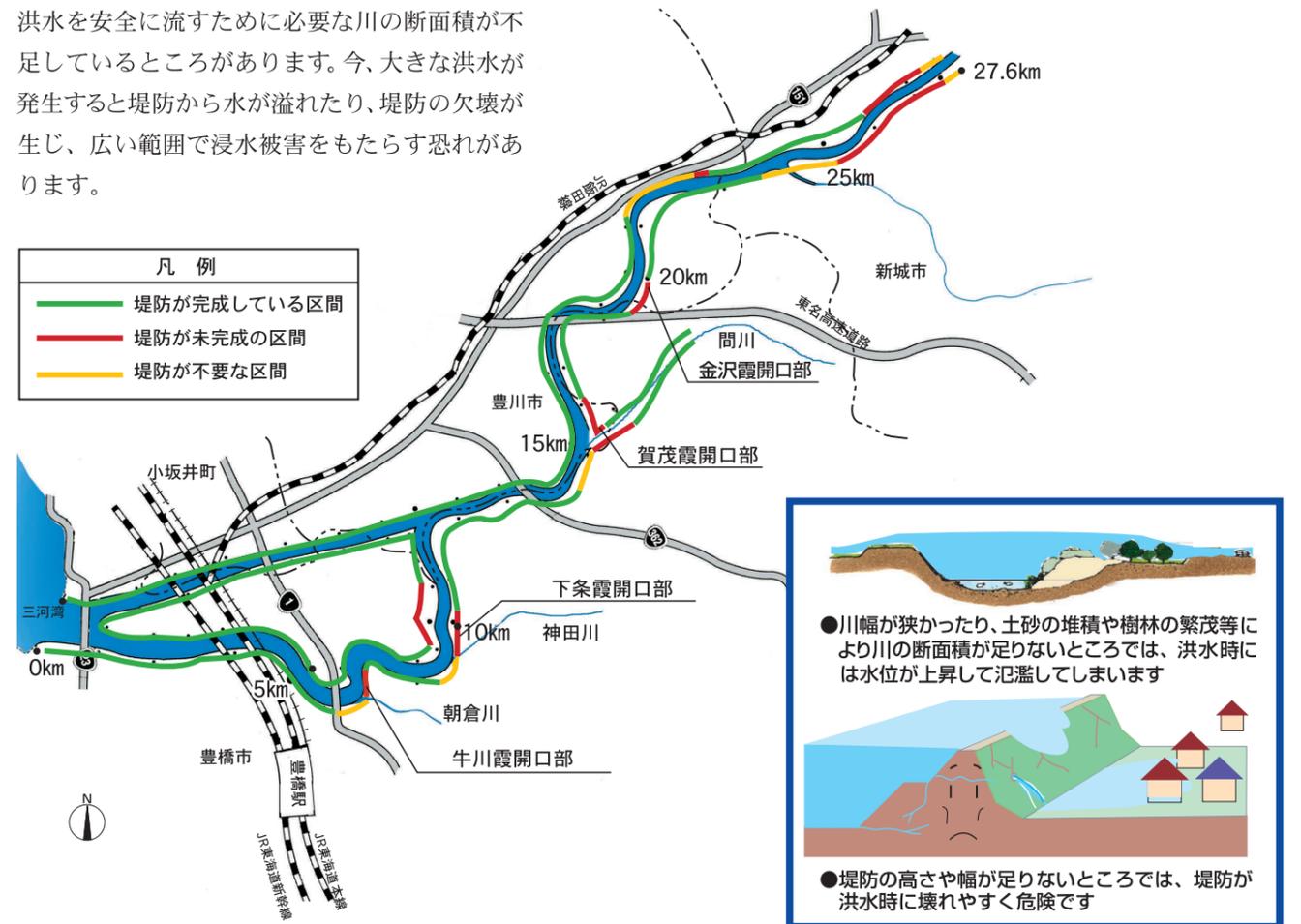
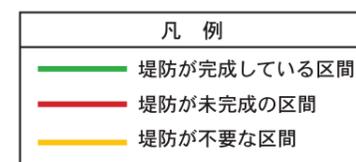
昭和30年代



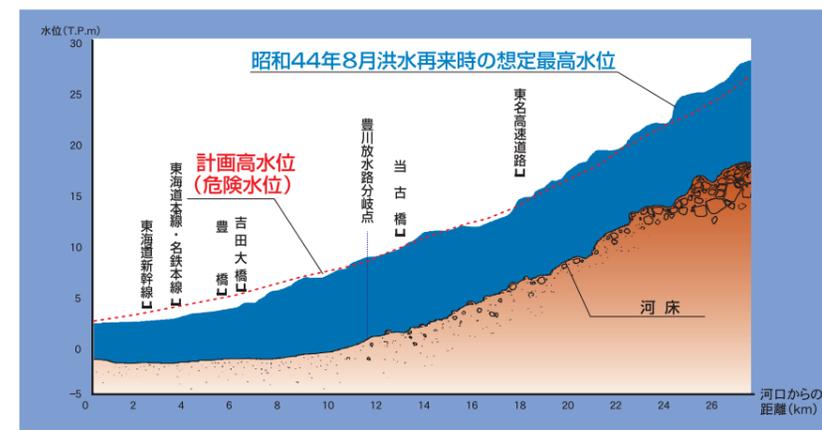
平成8年

現在の整備状況

豊川には、堤防の高さや幅が足りない区間や、洪水を安全に流すために必要な川の断面積が不足しているところがあります。今、大きな洪水が発生すると堤防から水が溢れたり、堤防の欠壊が生じ、広い範囲で浸水被害をもたらす恐れがあります。



今、洪水が来ると



昭和44年8月洪水時と同じ雨が降った場合の最高水位

戦後最大洪水となった昭和44年8月洪水と同じ雨が降った場合、現況では、いたるところで水位が計画高水位（危険水位）を上回ることで、洪水氾濫被害が生じるおそれがあります。

生活を支える豊川の水利用

豊川の水は、古くから沿川の農業用水や水道用水として利用されてきました。今では蒲郡市、渥美半島、さらには静岡県湖西市まで含めた広い範囲で利用されています。しかし、毎年のように渇水となり、水利用や河川環境に影響が出ています。

水利用の現状

豊川の水は、主に昭和43年に完成した豊川用水を通じて広い範囲で利用されています。用途は5市3町の水道用水のほか、工業用水、約18,100haに及ぶ農地のかんがい用水などで、この地域の生活や産業の発展を支えています。

豊川流域圏図



豊川流域圏 豊川流域 利水地域市町
天竜川流域 豊川用水幹線水路

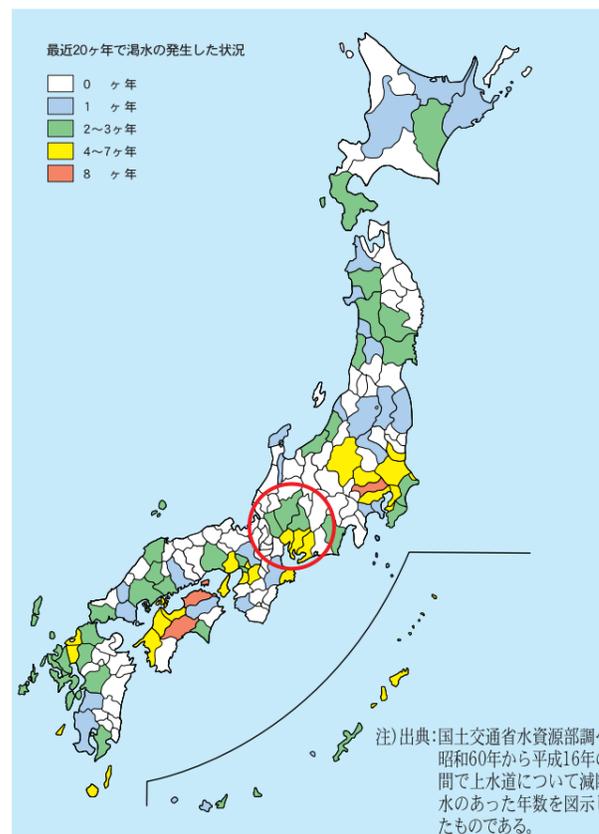
一方、豊川では毎年のように取水制限が行われ、水道用水の減圧給水、工場の生産調整、農作物の生育不良などの渇水被害が生じています。

過去の渇水発生状況(昭和52年～平成17年)

| 取水制限実施期間 | | | 期間中の最大取水制限率(%) | | | 宇連ダムの最低貯水率(%) | 大島ダムの最低貯水率(%) |
|-----------|----------|------|----------------|----|----|---------------|---------------|
| 開始日 | 終了日 | 日数 | 水道 | 工業 | 農業 | | |
| S52.8.13 | S53.7.13 | 335 | 15 | 15 | 40 | 3.5 | — |
| S53.9.1 | S56.9.8 | 1104 | 15 | 15 | 40 | 17.9 | — |
| S57.7.7 | S57.7.28 | 22 | 15 | 20 | 40 | 41.7 | — |
| S58.8.10 | S58.8.17 | 8 | 5 | 15 | 20 | 44.7 | — |
| S59.1.24 | S59.8.22 | 171 | 15 | 20 | 40 | 7.0 | — |
| S59.10.12 | S60.3.13 | 153 | 22 | 27 | 44 | 0.0 | — |
| S61.2.21 | S61.3.31 | 39 | 15 | 20 | 40 | 11.0 | — |
| S61.8.28 | S62.1.26 | 152 | 20 | 27 | 44 | 19.3 | — |
| S62.8.24 | S63.5.24 | 275 | 24 | 31 | 48 | 2.7 | — |
| H1.8.23 | H1.8.31 | 9 | 5 | 10 | 20 | 31.2 | — |
| H2.8.9 | H2.9.19 | 42 | 5 | 10 | 20 | 41.0 | — |
| H3.8.23 | H3.9.18 | 27 | 10 | 15 | 30 | 33.5 | — |
| H4.8.1 | H4.11.4 | 72 | 10 | 15 | 30 | 23.4 | — |
| H5.4.27 | H5.6.30 | 65 | 10 | 15 | 20 | 11.1 | — |
| H6.6.16 | H6.10.24 | 131 | 35 | 60 | 60 | 2.9 | — |
| H7.2.10 | H7.4.24 | 74 | 20 | 40 | 40 | 7.3 | — |
| H7.8.11 | H8.4.1 | 235 | 30 | 50 | 50 | 5.4 | — |
| H8.5.8 | H8.7.9 | 63 | 25 | 45 | 45 | 8.5 | — |
| H8.8.1 | H8.12.5 | 127 | 15 | 30 | 30 | 28.3 | — |
| H9.3.17 | H9.7.11 | 117 | 5 | 10 | 10 | 18.2 | — |
| H9.9.1 | H9.11.30 | 91 | 10 | 20 | 20 | 42.0 | — |
| H10.8.21 | H10.8.31 | 11 | 5 | 10 | 10 | 43.2 | — |
| H12.5.16 | H12.6.12 | 28 | 10 | 15 | 15 | 32.3 | — |
| H13.5.10 | H13.9.6 | 119 | 27 | 43 | 43 | 18.5 | — |
| H14.6.28 | H14.7.12 | 14 | 5 | 5 | 5 | 51.7 | 26.8 |
| H14.8.29 | H14.10.8 | 40 | 25 | 40 | 40 | 5.3 | 51.5 |
| H17.6.15 | H17.8.26 | 72 | 20 | 30 | 30 | 7.1 | 52.7 |

注) 1.取水制限実施期間、日数は自主節水を除く。
2.水源の最低貯水率は午前9時の値。
3.大島ダムは平成14年1月より湛水開始

東三河地域は全国的に見ても渇水の発生頻度が多い地域です。



注) 出典:国土交通省水資源部調べ
昭和60年から平成16年の間で上水道について減断水のあった年数を図示したものである。

河川環境への影響

渇水時には、主要な取水地点から下流の河川流量が著しく減少し、水道用水の取水や魚類等の生息に大きな影響を及ぼしたりしています。

毎日新聞
(平成8年2月22日)
掲載記事

東海日日新聞
(平成2年7月26日)
掲載記事



渇水時の宇連ダム

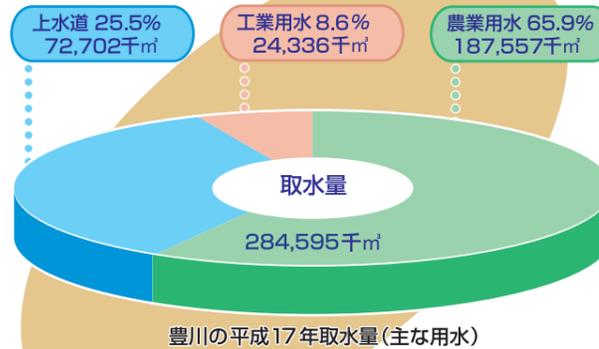
今後の水需要

豊川水系では平成18年2月17日に水資源開発基本計画が変更されました。

その中で平成27年における水道用水及び工業用水の需要の見通しは、毎秒約6.1立方メートルとされています。また増加する農業用水の需要の見通しは、毎秒約0.3立方メートルとされています。

これらの需要に対し、水道用水及び工業用水は、近年の20年に2番目の規模の渇水時における流況を基に、安定した供給ができるよう豊川用水二期及び設楽ダムを施設整備するとされています。

また、農業用水の増加分である毎秒約0.3立方メートルを設楽ダムにより供給するとされています



豊川の平成17年取水量(主な用水)

読賣新聞
平成6年9月9日
掲載記事

毎日新聞(夕刊)
平成6年9月12日
掲載記事

中日新聞(夕刊)
平成6年9月12日
掲載記事

東海日日新聞
平成7年8月25日
掲載記事